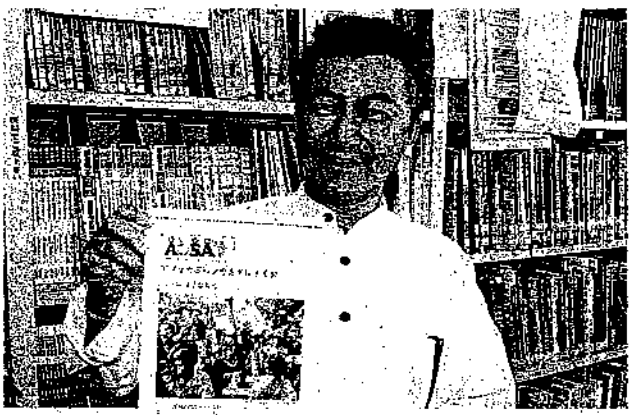
2010.10.2(土)

徳島新聞

ぴーぷる



白内障の患者に光を

アフリカ南東部のモザンビークで白内障の治療を行った徳島大学病院眼科の内藤毅准教授(55)＝徳島市南佐古三番町、写真。「患者が術後、『1人で歩くことができる』と大喜びする姿を見てうれしかった」と顔をほころばす。

2008年、非政府組織「アフリカ眼科医療を支援する会」を設立。9月6日から3日間、仲間の眼科医とペンバ市立病院を拠点に、無料で113人の手術をした。医療物資が少なく、手術が終わっても次に使う医療器具の消毒などに追われ「ほとんど休みはなかった」と振り返る。

同国では、栄養不足や強い紫外線の影響で、白内障で失明した人が20万人を超すと言われている。目の不自由な人は、学校に通えなかったり、仕事に就けなかったりして、貧困から脱出できない悪循環が続いている。

「継続して治療を行うことでアフリカの状況を改善したい」。